

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「児童養護施設で生活する児童への支援活動」事業

文通や展覧会などを通して交流を続けることで「心の母親」として子どもたちの成長を支える

札幌市に拠点を置く「心の里親会・奨学会」では、「すべての子らに母の愛情を」をスローガンに、貧困や虐待、親の病気や離婚など、何らかの事情によって児童養護施設で生活する子どもたちを対象に、文通による精神的支援を始め、様々な支援活動を行っている。成長に合わせたキメの細かい支援は、子どもたちの心の糧となっている。



奨学金授与式、奨学生認定式



高校卒業生への新生活必需品の寄贈と食事会を実施する卒園生激励会

増加傾向にある児童養護施設で暮らす子どもたちを物心両面で支える活動を実施

公益社団法人「心の里親会・奨学会」は、1959年7月に北海道札幌市で設立され、現在、370余名の会員が中心となり、札幌市やその近隣市町村にある7カ所の児童養護施設で暮らす子どもたちの支援を行っている。施設には親の病気や離婚、貧困、虐待など、何らかの事情によって家庭での養育に恵まれない子どもたちが生活しているが、同法人は文通による交流をベースに施設を訪問するなど、心の交流を心がけている。

また、絵画展、書道展、作文コンクールを開催して子どもの資質向上に寄与するほか、進学・就職する子どもたちの激励会を開いたり、新生活用品を寄贈したりするなど、子どもたちの成長に合わせ、物心両面での支援を行っている。

昨今の少子化にも関わらず、児童養護施設で生活する児童や生徒は増加傾向にある。要因としては、予期せぬ妊娠や貧困、DV(ドメスティックバイオレンス)、若年妊婦など、子どもを育てることが難しいケースも見受けられるが、両親が揃っていても密室となる家庭内で虐待が行われていたり、不適切な環境での生活を強いられ続けているケースもある。

問題が複雑で多岐にわたるため、難しい課題ではあるが、私たち一人ひとりがそうした問題に関心を寄せ、児童養護施設で暮らす子どもたちを見守り、助けの手が差し伸べられるような社会でありたいとの願いから、同法人では息の長い活動を続けている。事業を推進するうえで、活動資金の確保が喫緊の課題となっているが、2022年度に引き続き、2023年度もPOSCおよび北海道遊技事業協同組合の助成を活用して、様々な事業に取り組んだ。

手書きの手紙ならではの温かい交流や将来の自信となる展覧会などを開催

2023年度の主な事業としては、①文通事業(月平均1回)、②広報事業(心の里親フェア、『心の里親しんぶん』)、③展覧会(北海道庁と札幌地下街で開催。表彰式も実施)、④卒園生激励会(高校卒業生への新生活必需品の寄贈と食事会)、⑤新入学祝(上履き、文具などを寄贈)、⑥櫻ヶ丘学園交流会、⑦奨学金授与式・奨学生認定式(106名に3万円給与)などがある。

文通は会員と児童が1対1となって行うものだが、小学校入学頃から始まり、長いケースでは高校卒業まで12年間続くこともある。集団生活をしている児童にとっては、自分宛ての手紙が届くことは楽しみであり、届いた手紙を大切に保管している子どももいる。SNSなどが主流となっている昨今だが、会員は手紙の先にある子どもの顔や様子を想像しなら、手書きならではの温かみのある手紙にこだわって送り続けている。子どもたちのなかには、成長の過程で起こる出来事や悩みなどを手紙を通して文通相手

ある会員に伝えてくる子どももいる。

展覧会や作文コンクールは、作品の制作に努力することで自分自身を見つめる時間となり、子どもたちが成長する機会となることを目的に開催しているが、札幌市の中心街を展示会場とすることで、昼夜を問わず大勢の市民に作品を鑑賞していただける機会となっている。また、表彰式を開催し、子どもたちと喜びを分かち合うようにしている。児童養護施設を卒園後、数十年も経てから、かつて自分が過ごした施設を訪れ、展覧会で賞を受けたことがその後の人生の自信になったと懐かしく振り返る方が大勢いる。参加した子どもたちにとって、今後のそれぞれの人生における大きな経験と自信になって欲しいと願っている。

北海道遊技事業協同組合より

様々な原因から児童養護施設で暮らさざるを得ない子どもたちがいるなかで、そうした子どもたちの成長の糧となるような支援事業を続けることは貴重だと思います。



幼稚園児から高校生までの児童が書いた作品を集めた展覧会と表彰式



助成団体:公益社団法人 心の里親会・奨学会

<http://kokorono-sato.com>



「想いを寄せて」をテーマに、2023年度の事業を実施できました

2023年度も助成団体にご選出下さいまして、心より感謝申し上げます。2023年度は「想いを寄せて」をテーマに事業に取り組みました。新型コロナウイルスに対する行動制限が緩和され、会員と子どもたちが接する機会が増え、支援活動も盛んになりました。2023年度106名の高校生に奨学金を支給し、5年ぶりに卒業生のお祝い会も開催できました。

公益社団法人 心の里親会・奨学会
会長 繁富 よしえさん